

Chichester Times : Special Tokiwa Issue

No.07-4 26 Feb. 2007

ダイアナ

その死を巡っては陰謀説が絶えず、あの事故から10年たちますが、スコットランド・ヤードが調査の結果として公式に陰謀説を否定したばかりだと思います。だからといってすべてに幕が引かれて彼女の存在が歴史の一項目になるにはまだまだ時間がかかるということでしょうか。巷ではいまだに話題を提供する側にいます。土曜日の新聞の「付録」に友人だった(ジョン・)アッテンボロー卿(!)の監督による90分もののDVDが付きました。前日までのテレビで宣伝していましたから、村の雑貨屋さんには「Mail(デイリー・メール誌)」を求める人が早朝から多く見受けられました。まあ。私も車を飛ばして買いに行っただけですけど。何せ、50ペンスですから。こちらの新聞は販売促進のために時々こんなことをやります。それにしても、イギリスの「新聞」は分厚いです。この日のDaily Mailは何と128ページです。これって「新聞」ではなく「雑誌」ですよ。

ちなみに、ダイアナの次男であるハリー王子が、所属する部隊(彼は現在軍人です)の派遣に同行してイラクに行くかもしれないことが、時々話題になります。



空き部屋365室の「家」

そのDaily Mailがこんな記事載せています。ウェントワース・ウッドハウスは、毎日違う部屋を使っても全部使うのに1年かかる、おそらくイギリスで最大の私邸だそうです。18世紀末に石炭産業で財をなしたフィッツウィリアムズ一族が作り上げた「化け物」ですが、20世紀になってからは数奇な運命を辿り、1999年当時ある不動産会社が買った時には150万ポンド(当時なら3億円ほど)だったそうです。破格の安さですが、1部屋を修復するのに4~5人の修復チームが住み込みで2年かかったそうで、全部修復することを考えると、計算することさえ馬鹿馬鹿しくなります。ジョージ王朝風の大建築ですが、実際は3軒の建物が1つにまとまっています。中央部が元々はチューダー建築で、18世紀に愚かしい競争から西と東に翼棟が増築され、さらに3階部分が加えられたそうです。なにせ、大地主の不動産です。現在この資産は3つに分割され、16000エーカー(約2000万坪?)の土地は一族が相続し、隣接する村も資産の一部だそうです。こちらは基金団体の管理に移り、バッキンガム宮殿の倍の広さがある建物本体は製薬会社の金持ちが所有しているそうです。この記事は新刊書の案内で、*Black Diamonds: The Rise and the Fall of English Dynasty*という3月に出版される本を紹介しています。増築競争やら相続争い、相続人の出生の秘密、16トンにもものぼる証拠書類の焼却隠滅など、物好きの暇つぶしにはもってこいの読み物かもしれません。20ポンドです。読んでみましょうかね。

子供の肥満

イギリスの経済的な豊かさと並行してかねてより子供の肥満が問題になっていましたが、今年気が付いたことは子供の肥満に対する「規制」が進んでいることです。子供の肥満は親の「怠慢」どころではなく、警察が絡む「虐待」扱いされるようです。*The Sunday Times*の記事にこんな写真が載っています。親の言い分は遺伝的に食物に偏りが出るのであり家族として努力しているとのことですが、この子の将来はソーシャル・ワーカー、警察、家族の三者が協議して来週中に決定されます。最悪は、親による「身体的、性的虐待」になるそうで、イギリスでは子供の肥満は深刻な問題なのです。

2年前のこの時期には、子供にジャンクフードを食べさせずに済むように母親にまともな料理を教えるべきだという新聞記事程度でしたから、状況はひどく悪化しているようです。子供が視聴するテレビ番組や時間帯での菓子類のコマーシャルを規制する法案が成立するようです。まあ、控えめな旅行者である私ですら、1週間もこちらで食事すると2〜3キロは太るような国です。かつて（少なくとも10年ほど前まで）は、よく歩き、控えめな食習慣が生き残っていたイギリスですが、ビッグバン以来の好景気せいか、遠慮会釈無く良い車を乗り回し、一日中開いているパブに入り浸り、昼も夜もたっぷり食事をするような経済的余裕が出たようです。肥満は子供だけの現象ではなく、そもそも大人の「生活習慣病」から始まっています。だいたい、菓子類を食べ過ぎるし、その菓子も1個が大きすぎるし、レストランなどでの1皿の量が多過ぎるし、クリームティーみたいに太る要因が生活の中に多すぎます。控えめな私もこの中にいるのですが、更に太って帰国するのでしょうか？



天候

この3日間ほど昼間は晴れてさわやかな気候です（時々雨が降りますが）。夜は強風が吹き荒れ、毎晩のように雨が激しく降っています。雨の降り方は相変わらず予測不能です。太陽の中を気持ちよく歩いて書店で本のタイトルを眺めてから出ようとすると、いつの間にか暗雲立ちこめざあざあ雨が降っています。諦めて濡れながら車に戻って走り出すと、またさあっと晴れてきます。もうちょっと暖かい時期なら気にもならないのですが、多少着込んでいるこの時期だと上着やコートが濡れて往生します。最近のイギリス人は傘を差して凌いでいますが、中には、濡れるのを見越してか（？）、Tシャツやノースリーブ姿で歩き回る向きもいます。テレビの天気予報の精度は上がっているように思いますが、短時間の予測はしないのが心安らかです。降ったら諦める。これが鉄則で、濡れたら、悔し紛れに近くの誰でも彼でもつかまえて、「雨がどうのこうの」「朝の太陽の素晴らしさがどうのこうのといくらでも会話ができるのです。今日はスーパーに買い物に出かけて、濡れました。悔しいです。

Deadly Hallow

「ハリー・ポッター」シリーズの新作が7月21日に発売されるとのことで、我が学生諸君もとくに気が付いて読書意欲を高揚させています。予約特典としてシリーズにまつわる10ポンド相当の本が「無料で」付いてくるからです（Waterstone 書店）。ところで、24日はロンドン遠足でした。キングズ・クロス駅に行って例のプラットフォームのプレートを写真に撮りたいのだ、ロンドン塔のタワーグリーンに立ちたいのだと言っていましたが、迷わずに目的を達成できたのでしょうか。今年は、市外へ出かけるときには時間と場所を明示した計画書の提出を義務づけています。成果を最大に引き出すためですが、自分の行動を計画することに困難を感じる学生が多くいます。具体的な内容についてはは次号でお伝えします。

（文責：吉川）